

やまがた地鶏の生育調査

山形県立置賜農業高等学校 生物生産科 2年

青木、伊藤、遠藤、大友、小田、

片倉、加藤、川崎、宍戸、豊田、原

1 はじめに

やまがた地鶏は平成17年に山形県畜産試験場が山形県の新しい特産品として開発したもので、県内農業系高校では本校の他に新庄神室産業高校や村山産業高校でも飼育しています。

本校ではこれまで、やまがた地鶏の飼育は生物生産科2年生が担当していました。今年も私たちが担当しましたが、新型コロナウイルスの影響で年度始めが休校になったことがあり、特に新しい技術に挑戦することでなく、飼育の基礎技術を学ぶことにしました。

2 実施目標

- (ア) やまがた地鶏の飼育技術を身につける。
- (イ) やまがた地鶏の生育調査を行う。

3 実施内容

- (1) 飼育期間
前期 令和2年4月27日～令和2年9月23日
後期 令和2年9月30日～令和3年2月22日
- (2) 飼育数
前期 種卵45 ふ化40 出荷40 (ふ化率89%、育成率100%)
後期 種卵60 ふ化55 育成中53 (ふ化率92%)
- (3) 飼料給与計画
0～28日齢 幼雛用クランブル 不断給与
28～40日齢 ブロイラー用 65g
40～50日齢 ブロイラー用 77g
50～60日齢 ブロイラー用 77g + 飼料用米 13g
60～110日齢 ブロイラー用 77g + 飼料用米 43g
110日齢以降 ブロイラー用 90g + 飼料用米 50g
- (4) ワクチンプログラム
0日齢 マレック病生ワクチンを皮下接種
7日齢 ニューカッスル病・伝染性気管支炎混合ワクチンを飲水投与
21日齢 ニューカッスル病・伝染性気管支炎混合ワクチンを飲水投与
- (5) 衛生管理
 - 鶏舎入り口に踏み込み消毒槽を設置し、常に消石灰を散布した。
 - 空舎時にオスバン液剤を散布した。
 - 鶏舎外窓は金網張りとして野鳥の侵入を防止した。
- (6) 温度管理
 - ふ化中 0～18日 37.8℃、18～21日 37.2℃
 - バタリー育雛 0～14日齢 30.0℃、15～21日齢 25.0℃、22～28日齢 20.0℃
 - 平飼い 28日齢以降は室温
- (7) 出荷
 - 120日齢または出荷体重(オス4.0kg、メス2.7kg)に達した時に出荷した。
 - 藤倉養鶏場に解体・精肉を依頼した。

4 実施結果



ふ卵器によるふ化



初生びな



ワクチン接種



バタリーの準備



飲水ワクチン



体重測定



平飼い飼育

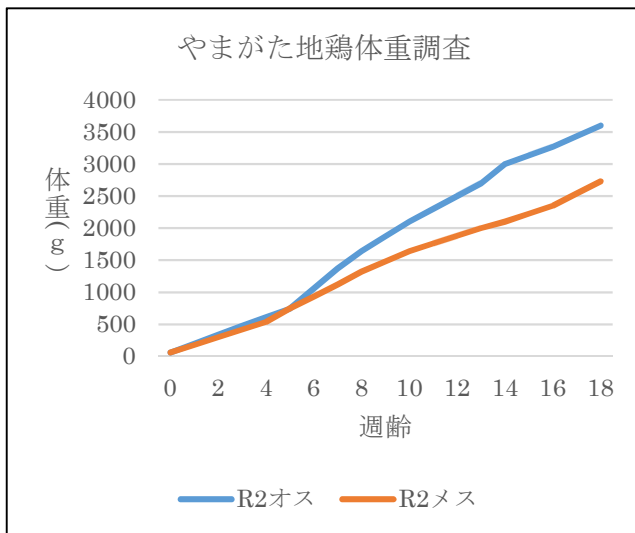


出荷のための捕獲

5 生育調査

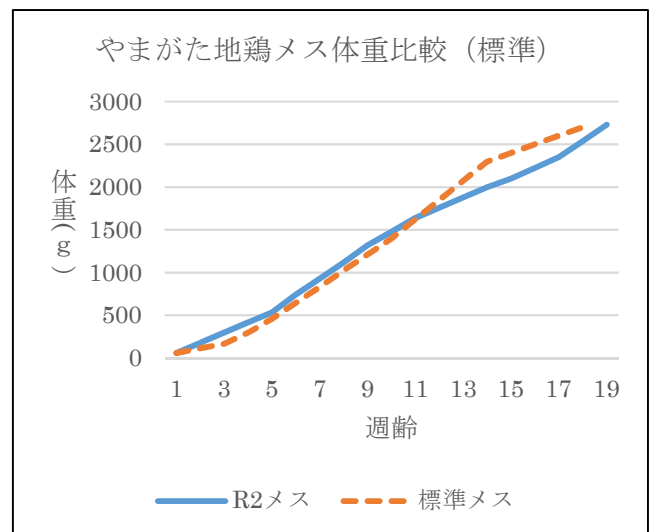
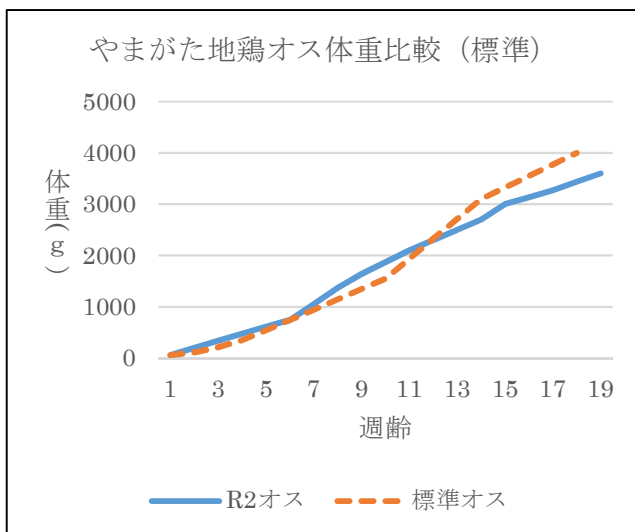
1羽ずつ体重を測定し、オスメス別に平均値を算出しました。

(1) R2年度のオスメス比較

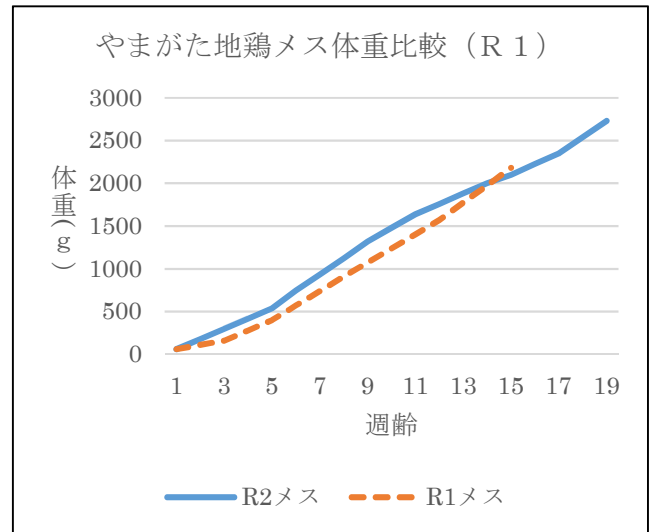
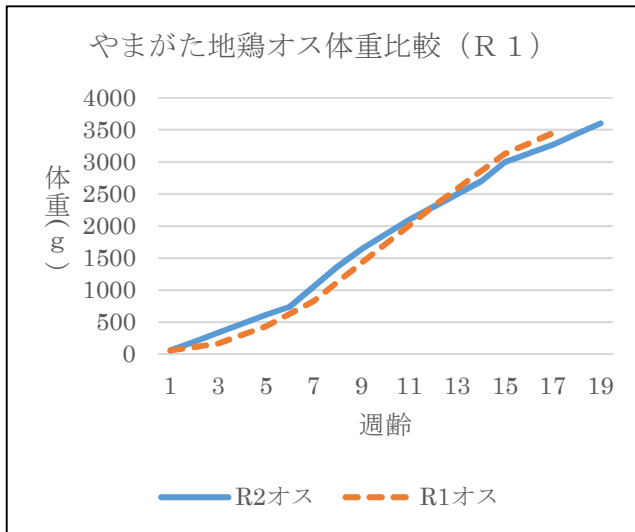


5 週齢までは性別による差が見られないものの、6 週齢以降はオスのほうが体重が重くなり、差が開いていきました。これは発育標準でも同じ傾向が見られます。

(2) R2年度と発育標準の比較



(3) R2年度とR1年度の比較



6 考察

- 今年とは昨年と比べると生育が良かったが、標準生育と比べると悪かった。原因はエサの食べ具合かもしれない。(青木、川崎)
- 今年とは昨年と比べて初めの体重増が大きかったが、後半は昨年よりも悪かった。原因は寒暖差が昨年よりも大きく、環境変化によるものかもしれない。(遠藤)
- 今年の生育は後半につれて伸びている。環境の変化やニワトリの体の変化などがあると思う。(大友)
- 今年とは昨年と比べて生育が良かった。原因は気温にあるのかもしれない。(小田)
- 今年とは標準と比べて生育状況が悪かった。原因は気温の低さなど環境が変わったからかもしれない。(片倉)
- 今年とは標準と比べて生育が悪かった。原因は今年の羽数が少なかったからと思う。(加藤)
- 今年とは昨年と比べて生育が遅れていることがわかった。コロナの影響が何かあるのかと思った。(宍戸)
- 昨年と比べると最初は生育が良いが、後半になるとオスは小さくてメスは少し大きい。温度や環境の変化があるのかもしれない。また、エサの量による影響があるのかもしれない。(豊田)
- 今年とは標準と比べて生育が悪かった。エサが足りなかったかもしれない。(原)

7 今後の課題

- (ア) 飼育期間の後半にも体重が伸びるように、体重測定の結果からエサの給与量を調整する。
- (イ) 現在、飼育部屋が一つのため、オスとメスを一緒に飼育している。密飼いになって運動量が減ったり、エサを摂取できない個体が出たりしないように工夫する。